ドイツ語学ドイツ文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋文化学特論Ⅰ	ヨーロッパ文化研究入門(1)	2	森本 浩一	1学期	金	3	1	ドイツ文化学特論Ⅰ
西洋文化学特論Ⅱ	ヨーロッパ文化研究入門(2)	2	森本 浩一	2学期	金	3	2	ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学特論Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	1学期	木	2	3	ドイツ文学特論Ⅰ
ドイツ文学特論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作品選『モントサーフェン・パルンベルグ』	2	佐藤 研一	2学期	木	4	4	ドイツ文学特論Ⅱ
ドイツ文化学特論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏としての中欧の文化と歴史 (1)	2	佐藤 雪野	1学期	火	3	5	ドイツ文化学特論Ⅰ
ドイツ文化学特論Ⅱ	文化を批評する	2	森本 浩一	2学期	月	3	6	ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学研究演習Ⅰ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	1学期	月	4	7	ドイツ文学研究演習Ⅰ
ドイツ文学研究演習Ⅱ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	2学期	月	4	8	ドイツ文学研究演習Ⅱ
ドイツ語学研究演習Ⅰ	ドイツ文化学研究演習Ⅲ	2	NARROG HEIKO	1学期	火	2	9	ドイツ文化学研究演習Ⅰ
ドイツ語学研究演習Ⅱ	ドイツ文化学研究演習Ⅲ	2	NARROG HEIKO	2学期	火	2	10	ドイツ文化学研究演習Ⅱ

科目名：西洋文化学特論 I / European Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM15304， 科目ナンバリング：LGH-LIT628J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学特論 I 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ文化研究入門(1)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the study of European culture I

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での基礎的な知識・観点を広く学び、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につけることを目指す。履修者は、各分野の中核的な事象・概念のうち、自らの専門「以外」のテーマを選んで簡単な報告を行い、当該分野を専門とする学生を含む他の参加者との討議を通じて、異なる分野の視点や方法論に親しむ。教員はアクティブな議論を誘導するとともに、俯瞰的視点からの講義を行い、「ヨーロッパ的なもの」の様々な側面に学生が関心を向けるよう指導する。

4. 学習の到達目標：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語等について研究するための基礎的な知識・観点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 言語研究(1)
3. 言語研究(2)
4. 言語研究(3)
5. 文学とレトリック(1)
6. 文学とレトリック(2)
7. 文学とレトリック(3)
8. 諸芸術
9. 哲学と宗教(1)
10. 哲学と宗教(2)
11. 哲学と宗教(3)
12. 歴史(1)
13. 歴史(2)
14. 歴史(3)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の討議への参加と発表（70%）、および最終レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各人に割り当てられた発表レポートを事前に準備するために、調査と執筆のための時間外学習が必要である。

9. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることに。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：西洋文化学特論Ⅱ／ European Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM25302， 科目ナンバリング：LGH-LIT629J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

ヨーロッパ文化研究入門(2)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the study of European culture II

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での多様な知識・観点に接し、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につけることを目指す。授業の目標はⅠと同様であるが、Ⅱにおいて学生は、自らが関心を抱く専門的テーマについて報告する。その際、専門外の学生も十分理解できるよう、基礎的事項や問題の文脈を踏まえた丁寧な説明を心がけることで、自らの研究内容について効果的に「語る」訓練も行う。教師は補助的な解説によって発表と討議をサポートするとともに、概説的講義を通じて当該テーマ周辺の諸問題を学生が幅広く理解できるよう指導する。

4. 学習の到達目標：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語等について研究するための基礎的な知識・観点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 言語に関する発表と討議(1)
3. 言語に関する発表と討議(2)
4. 言語に関する発表と討議(3)
5. 文学・芸術に関する発表と討議(1)
6. 文学・芸術に関する発表と討議(2)
7. 文学・芸術に関する発表と討議(3)
8. 哲学・宗教に関する発表と討議(1)
9. 哲学・宗教に関する発表と討議(2)
10. 哲学・宗教に関する発表と討議(3)
11. 歴史に関する発表と討議(1)
12. 歴史に関する発表と討議(2)
13. 歴史に関する発表と討議(3)
14. その他のテーマに関する発表と討議
15. まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の討議への参加と発表（70%）、および最終レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各人に割り当てられた発表レポートを事前に準備するために、調査と執筆のための時間外学習が必要である。

9. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：ドイツ文学特論Ⅰ / German Literature (Advanced Lecture) Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM14208， 科目ナンバリング：LGH-LIT630J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：

Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：

現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは12世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読1 (1430-1433)
- 6 中高ドイツ語文学講読2 (1434-1437)
- 7 中高ドイツ語文学講読3 (1438-1441)
- 8 中高ドイツ語文学講読4 (1442-1445)
- 9 中高ドイツ語文学講読5 (1446-1449)
- 10 中高ドイツ語文学講読6 (1450-1453)
- 11 中高ドイツ語文学講読7 (1454-1457)
- 12 中高ドイツ語文学講読8 (1458-1461)
- 13 中高ドイツ語文学講読9 (1462-1465)
- 14 中高ドイツ語文学講読10 (1466-1469)
- 15 中高ドイツ語文学講読11 (1470-1473)

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社

8. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ／ German Literature (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 研一（非常勤講師）

講義コード：LM24401， 科目ナンバリング：LGH-LIT631J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(V)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (V)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえて、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか、見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチィ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置きながら、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わい、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Fünfter Aufzug, Erster Auftritt, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt

第3回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第4回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt

第5回：Fünfter Aufzug, Sechster Auftritt, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt

第6回：Fünfterr Aufzug, Neunter Auftritt

第7回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第8回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第9回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第10回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第11回：Fünfter Aufzug, Zehnter Auftritt, Eilfter Auftritt

第12回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第13回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt

第14回：Fünfter Aufzug, Vierzehnter Auftritt, Funfzehnter Auftritt

第15回：総括

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。参考文献は以下の通り。

Goethe, Johann Wolfgang: Götz

von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister

oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten.

Stuttgart: Reclam, 2004.

/柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

8. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文化学特論 I / German Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野（兼務教員）

講義コード：LM12304， 科目ナンバリング：LGH-LIT632J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学特論 I 】

1. 授業題目：

ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 （1）

2. Course Title (授業題目)：

Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (1)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

今学期は「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハとドイツ人（講義）
3. プラハとドイツ人（テキスト購読）
4. プラハとユダヤ人（講義）
5. プラハとユダヤ人（テキスト購読）
6. プラハのドイツ文学（講義）
7. ゴーレム伝説（講義）
8. 映画ゴーレム
9. マイリンクのゴーレム 1（テキスト購読）
10. マイリンクのゴーレム 2（テキスト購読）
11. マイリンクのゴーレム 3（テキスト購読）
12. マイリンクのゴーレム 4（テキスト購読）
13. マイリンクのゴーレム 5（テキスト購読）
14. マイリンクのゴーレム 6（テキスト購読）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

7. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

8. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ／ German Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM21305， 科目ナンバリング：LGH-LIT633J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

文化を批評する

2. Course Title (授業題目)：

Critique of Culture

3. 授業の目的と概要：

学生は、発表・討論・講義が組み合わされたアクティブな授業を通じて、文化的対象、特にこの場合は文学や映画などの「作品」を研究しそれについて論述するために必要な知識と技能を身につける。講義を通じて、文化的「作品」をそのジャンルとメディアの観点から分析し解釈するための基本的な考え方を学ぶとともに、個々に関心を抱く「作品」（例えばドイツ語圏の小説）を取り上げて自ら論述を試み、他の参加者との討議を通じて、分析・解釈のスキル・アップをはかる。教師は、観点や分析方法の適切性についてコメントし、学生の個性を活かす形でその論述能力が向上するよう指導する。

4. 学習の到達目標：

文化的対象を批評する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入

2. 発表・討議・論評(1)

3. 発表・討議・論評(2)

4. 発表・討議・論評(3)

5. 発表・討議・論評(4)

6. 発表・討議・論評(5)

7. 発表・討議・論評(6)

8. 発表・討議・論評(7)

9. 発表・討議・論評(8)

10. 発表・討議・論評(9)

11. 発表・討議・論評(10)

12. 発表・討議・論評(11)

13. 発表・討議・論評(12)

14. 発表・討議・論評(13)

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表、各回の批評文の提出と討議への参加（70%）およびレポート（30%）

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各人に割り当てられた発表の事前準備および、他の参加者の発表に対する論評を毎回提出するするために、調査と執筆のための時間外学習が必要である。

9. その他：なし

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ文学研究演習 I / German Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM15205， 科目ナンバリング：LGH-LIT634J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文学研究演習 I 】

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

近現代のドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。

今期は Robert Musil の Die Portugiesin を読む。Musil は世紀転換期のオーストリアで活躍した小説家・戯曲家であるが、きわめて理知的でありながら神秘主義的な側面を持つ。その文体は決して難解ではないが、文と文のつながりを理解するのは容易でない。特に接続詞 denn の用い方が独特で、この理由付けの論理を理解できるかどうか Musil 理解の鍵になると言っても好い。しかし、わざと分かりにくい表現をしているのではないので、丹念に文脈を追えば、必ず正しい理解に到達できるので、受講者にはあらゆる辞書を用いて、徹底的な精読をしてもらいたい。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。

作品の内容について自分なりの解釈ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Die Portugiesin 講読 1, S. 252-253

3 Die Portugiesin 講読 2, S. 254

4 Die Portugiesin 講読 3, S. 255-256

5 Die Portugiesin 講読 4, S. 256-257

6 Die Portugiesin 講読 5, S. 259

7 Die Portugiesin 講読 6, S. 260-261

8 Die Portugiesin 講読 7, S. 261-262

9 Die Portugiesin 講読 8, S. 263

10 Die Portugiesin 講読 9, S. 264-265

11 Die Portugiesin 講読 10, S. 265-266

12 Die Portugiesin 講読 11, S. 267

13 Die Portugiesin 講読 12, S. 268-269

14 Die Portugiesin 講読 13, S. 269-270

15 考察

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ／ German Literature (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM25204， 科目ナンバリング：LGH-LIT635J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。

近現代ドイツ短編小説を講読する。今期は Heinrich von Kleist の Die Verlobung in St. Domingo を読む。Kleist はドイツロマン主義と同時代の小説家・戯曲家であるが、ドイツロマン主義とは異なる面を持つ。その文体は、一つの文の中に副文を何重にも詰め込む特異なものであるため非常に読みにくいが、その文体から伝わる独特な熱が感じられるはずである。この作品においても多くの Kleist の作品に共通する「謎」が問題になるが、おそらく永遠に解決できないこの謎に受講者各人が何らかの解答を出すことが求められる。そのためにも一言一句おろそかにしない徹底的な精読が必要である。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。

作品の内容について自分なりの解釈ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Die Verlobung in St. Domingo 講読 1, S. 160-162

3 Die Verlobung in St. Domingo 講読 2, S. 162-164

4 Die Verlobung in St. Domingo 講読 3, S. 165-167

5 Die Verlobung in St. Domingo 講読 4, S. 168-170

6 Die Verlobung in St. Domingo 講読 5, S. 171-173

7 Die Verlobung in St. Domingo 講読 6, S. 173-175

8 Die Verlobung in St. Domingo 講読 7, S. 175-177

9 Die Verlobung in St. Domingo 講読 8, S. 178-180

10 Die Verlobung in St. Domingo 講読 9, S. 181-183

11 Die Verlobung in St. Domingo 講読 10, S. 183-185

12 Die Verlobung in St. Domingo 講読 11, S. 186-188

13 Die Verlobung in St. Domingo 講読 12, S. 189-191

14 Die Verlobung in St. Domingo 講読 13, S. 191-193

15 Die Verlobung in St. Domingo 講読 14, S. 194-195

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

9. その他：なし

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅰ / German Language (Advanced Seminar) Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO（教授）

講義コード：LM12207， 科目ナンバリング：LGH-LIT636B， 使用言語：2カ国語以上

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

ドイツ文化学研究演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Culture(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

- 1) ドイツの最新文学を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
- 2) 昨年・一昨年発表された文学作品を2週間当たり1作品ぐらいのペースで読んでいく。
- 3) 適時に発表やディスカッションなど、他の言語活動も行う。

4. 学習の到達目標：

各自が持っているドイツ語の文学作品の読む能力を高める。
各自が持っているドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Wolfgang Herrndorf: Stimmen
2. Wolfgang Herrndorf: Stimmen
3. Manja Präkels: Als ich mit Hitler Schnapskirschen ass
4. Manja Präkels: Als ich mit Hitler Schnapskirschen asd
5. Inger-Maria Mahlke: Archipel
6. Inger-Maria Mahlke: Archipel
7. Lucy Fricke: Töchter
8. Lucy Fricke: Töchter
9. Hannes Bajohr: Halbzeug
10. Hannes Bajohr: Halbzeug
11. Eckhart Nickel: Hysteria
12. Eckhart Nickel: Hysteria
13. Esther Kinsky: Hain
14. Esther Kinsky: Hain
15. Michael Lentz: Schattenfroh

6. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

7. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

8. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

9. その他：なし

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ／ German Language (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO（教授）

講義コード：LM22208， 科目ナンバリング：LGH-LIT637B， 使用言語：2カ国語以上

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ドイツ文化学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

ドイツ文化学研究演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Culture(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

- 1) ドイツの最新文学を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文学・文化の知識を身に着ける。
- 2) 昨年(2018年に)発表された文学作品を2週間当たり1作品ぐらいのペースで読んでいく。
- 3) 適時に発表やディスカッションなど、他の言語活動も行う。

4. 学習の到達目標：

各自が持っているドイツ語の文学作品の読む能力を高める。
各自が持っているドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Michael Lentz: Schattenfroh
2. Michael Lentz: Schattenfroh
3. Gerhard Henschel: Erfolgsroman
4. Gerhard Henschel: Erfolgsroman
5. Lina Muzur: Sagte sie
6. Lina Muzur: Sagte sie
7. Friederike Mayröcker: Pathos und Schwalbe
8. Friederike Mayröcker: Pathos und Schwalbe
9. Matthias Senkel: Dunkle Zahlen
10. Matthias Senkel: Dunkle Zahlen
11. Lukas Rietzschel: Mit der Faust in die Welt schlagen
12. Lukas Rietzschel: Mit der Faust in die Welt schlagen
13. Angela Steidele: Zeitreisen
14. Angela Steidele: Zeitreisen
15. Angelika Klüssendorf: Jahre später

6. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

7. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

8. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

9. その他：なし